

専修学校(高等課程・専門課程)に在学する学生及び生徒を対象とし、学校長の推薦を受けた申込者について選考のうえ採否を決定します。選考は人物・健康・学力・家計について基準に照らして行い、予算の範囲内で採用します。

お問い合わせ:独立行政法人 日本学生支援機構  
TEL 0570-03-7240(ナビダイヤル)  
<http://www.jasso.go.jp/>

### ◎ 熊本県育英資金

高等学校、高等専門学校、専修学校及び大学に在学する生徒又は学生で、経済的理由により就学が困難な人に対し、奨学金の貸付を行っています。

条件/①申請者と生計を一にする主たる維持者が熊本県内に居住していること ②経済的理由により就学が困難であると認められること ③勉学に意欲があること。大学に在学する者は学力にすぐれていること ④日本学生支援機構その他法人等から現に育英資金に相当する学費の貸与を受けていないこと

お問い合わせ:熊本県教育庁高校教育課就学支援係  
TEL 096-333-2682 TEL 096-384-1563

### ◎ 山鹿市奨学資金

高等学校、高等専門学校、専修学校及び大学に在学する生徒又は学生で、経済的理由により就学が困難な人に対し、奨学資金の貸付を行っています。

条件/①山鹿市に居住する方の被扶養者であること ②経済的理由により就学が困難であると認められること ③学業成績が優秀であること、又は、学校長の推薦があること ④日本学生支援機構奨学金その他奨学金の貸与、又は給付を受けていないこと

金額/高校等:公立 2万円以内 私立 3万円以内  
大学等:5万円以内  
入学支度金:40万円以内

お問い合わせ:山鹿市教育総務課  
TEL 0968-43-1396

## 思春期の心と体

中学生から高校生のころは思春期といわれます。

いわゆる大人でもない子どもでもない時期に当たり、女子では初潮が始まり、男女差が顕著に現れてきます。自分らしさを探し、親への依存心と干渉を受けるのは嫌という自立心との葛藤が生じます。

### 子どもとのコミュニケーション

会話はもちろん、子どものしぐさ、表情、雰囲気など声にならない声を傾聴し十分に受け止めることで、思春期には豊かな会話が生まれます。

#### 会話の内容

小学生の頃は、家に帰ると学校であったことを盛んに話した子どもでも、中学生になると無口になってきます。

話すことと云ったら、「勉強しなさい」「勉強はやってるか?」「学校はどうだ?」なんてことをワンパターンに口にします。子どもにとっては楽しい話題とはいえません。

#### ☆親と話したいことは?

思春期に入ると、子どもは親なんかと話をしたくなくなるものだという人もいますが、そうではありません。問題は、会話の内容なのです。子どもが考える「親と話したい話題」は、さまざまなアンケートによると、「学校のこと」、「友だちのこと」、「ファッションや音楽、映画、スポーツなど趣味の話題」、「テレビの番組」などです。子どもは親との会話を慎重に選ぶようになります。子どもに話をさせようと思えば、子どもが話しているときに「先回りしない」、「批判しない」、「口を

挟まない」こと。そして、子どもの友達の悪口を言わないということも重要なポイントになります。

会話とは、子どもから親への報告ではなく、一方通行では成り立たないものです。その基盤は『共感』です。

#### ☆親に話して欲しいことは?

「冗談や実際にあったおもしろおかしい話」や「親が自分の年ごろだったときのこと」、「ファッションや音楽、スポーツなど趣味の話題」。そこには、同じ思いを親子で共有したいという願いが感じられます。

親がユーモアのセンスを発揮して、子ども時代のことや実際にあった愉快な話などを楽しく話してくれることを子どもは望んでいます。まずは、お子さんと一緒に話して笑いましょう。笑いは『共感』を誘います。伝染します。子どもの一言に親が大笑いすれば、子どもの心も徐々になごんできます。



笑いに包まれた家庭は温かく、心からのやすらぎをもたらし、たとえ外でいやなことがあっても心の傷を癒してくれる場所となります。笑いは、子どもの心に温かきをもたらし、緊張感を緩めます。また同時に自分自身が他人を楽しませることができたという幸福感や充実感をもたらします。これは存在の肯定感につながり、対人関係にも自信を与えます。自分に自信があれば、他人に対していやなことはいやとはっきり自己主張ができ、自分の考えを伝えることができるようになるのです。

## 思春期のコンプレックスとストレス

思春期はホルモンが活発に分泌され、心身ともにアンバランスで不安定な時期で劣等感を感じやすい年頃でもあります。思春期は「自我」が目覚め、自分と他人との差異を感じ取るようになります。自分は他人と違う、他人より劣っているなどと考え始めると、ありとあらゆることがコンプレックスの材料になってしまいます。なかでも「容姿」と「成績」、これは劣等感を感じやすい要素です。

### 「容姿」のコンプレックス

中学生は身体も急速に成長します。男の子は声変わりし、柔らかな幼児体型を抜け出して筋肉質になり、ヒゲやスネ毛などが濃くなってきます。女の子は体の線がふくよかになり、大人の女性の体型に近づきます。中学生の頃は変化に個人差があり、まだ子どもの体型の子もいれば、体型だけはほとんど大人のような子もいます。子どもは戸惑い、時に自分に起きる成長の変化を受け入れたくないと感じてしまいます。脇毛やすね毛が気になり、ピチピチのスイミングパンツを穿くのはものすごく嫌、という声も耳にします。女の子も胸の膨らみが目につくピタリした体操着を嫌うことがあります。

### 「成績」のコンプレックス

子どものコンプレックスは親や周囲の価値観の反映でもあります。学校の成績で子どもの人格のすべてを評価することはできません。普段はそんなことはわかっている、つい言葉の端々に言ってしまうがちです。成績がすべてではないということを親も改めて理解しましょう。思春期は「自分はみんなと違ってダメだ」と思いこみやすい年頃です。まだ世界が狭く常識も不足しているので、友だちと比較して少しでも違ったことがあると、「自分だけ」と考えやすいのです。

では親はどうしたらよいでしょうか。さりげなく、体験談を子どもに話してあげましょう。「おかあさんの若いころ、こんなことで悩んでしまったことがあるの」「今から思えば笑っちゃうけど、おとうさんはこんなことで深刻に考え込んだぞ」などと事例を話してください。聞いた話でも読んだ話でも何でも結構です。要は「誰でもつまらないことにコンプレックスを感じたり悩んだりするものであり、そうして大人になっていくものだ」ということを子どもに伝えるのです。コンプレックスを抱いている子もそうでない子も、おもしろそうに話を聞き、安心して一つ大人への階段を昇ります。

## 子どものストレス

子どももストレスを感じながら生活しています。家庭でのストレスの最大要因は「親の不和」。夫婦喧嘩が絶えない家庭は子どもにとって居心地最低の場所となります。親の不仲は、想像以上に子どもの心を傷つけます。夫婦が冷戦状態にあっても、子どもは無言のメッセージを感じ取ります。そんなとき子どもは自分の存在が諸悪の根源のように思え、罪悪感すら感じます。親の関係だけでなく、親と祖父母との関係、兄弟の問題なども、やはり自分にその原因があると子どもが苦しんでいる場合もあります。お子さんの心をいろいろな方角から優しく思いやってください。「受験」や「将来」についての漠然とした不安感やプレッシャーもストレスとなって現れます。イライラの捌け口に暴力をふるったり陰湿ないじめをしたりします。人間関係に疲れ、イライラし、学校に行くことに嫌気がさしたり、ヤケになつたりしますが、家でもやはり学校と同じ「勉強しろ」、「友だちと仲良く」と言われ続け、溜まったガスを発散させる場がありません。

### 子どもと向き合って

わが子のことは何でも知っている、というのは親の思いこみかもしれません。わが子といえども理解していないことはたくさんあります。親が手助けできることは、子どもの苦悩に心を開いて耳を傾けてあげることです。言葉にして表現することができにくい状態なのですから、まずは話しかけられる環境や雰囲気を作ることが大切です。つまり親は、子どものいかなる態度にも引きずられずに落ち着いているということです。できれば、にこやかでありたいものです。そして子どもが感情をぶつけてきたら、あくまでも冷静に受け止めます。溜まったものを吐き出しさえすれば、子どもは親の真意を改めて悟ります。今だって半ばわかっているのです。

